

第1回 全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール  
受賞作品 講評

障害者虐待防止法の施行、差別解消法の制定等、国内関係各法の整備、改正が進められ、障がいのある方達に対する人権擁護、福祉施策拡充、推進が図られてきておりますが、残念ながら未だ差別、偏見、疎外の実態があり、知的障がい児(者)の福祉推進を目的としている本会といたしまして、会員施設・事業所に対する取り組みに留まることなく広く国民の皆さんに障がい児(者)福祉の啓発に努めることが重要との考えから、この度の小・中学生を対象とした「福祉ふれあい作文コンクール」を実施させていただきました。

この事業が今後の共生社会実現の一助となること、そして、子達の心が豊かに育まれることに大きな期待を寄せているところです。そんな本会の思いを受け止めて応募してくださいました多くの皆様方に感謝を申し上げます。

先般、都道府県協会での審査を経て最終審査会に推薦された作品を審議させていただきましたが、どの作品も心打つものがあり、文章もしっかりと書かれており、選考にあたって大変難しいものがありました。

小学生部門で厚生労働大臣賞に選ばれた蒲牟田一葉さん（鹿児島・日置市立湯田小学校2年）の作品『手』は、素直な優しさが胸を打ち、車イスのJくん等、障がいのある友達から普段の生活を通して共感、分かち合う姿が大変印象的でした。

同じく小学生部門で文部科学大臣賞に選ばれた曳地博さん（愛知・豊田市立市木小学校6年）の作品『A君がいたから』は、さながら感動短編小説のような構成で、少年らしい躍動感でまとめられています。読み終えて清々しさがあり、このような子たちが大人になった時、福祉の環境が明るい方向へと前進する思いを持てます。

中学生部門で文部科学大臣賞に選ばれた山岡詩さん（徳島・東みよし町立三加茂中学校1年）の作品『そのままがいいんだよ』は、特別支援学級で学ぶ活発で優しい頑張り屋の弟さんの日常を通して見る姉の眼差しが感動的。いつになっても皆に追いつくことの難しい弟、しかし、ありのままの姿を受け入れてくれる社会になったらどんなに生きやすくなるだろうとのメッセージは心に響きます。

同じく中学生部門で厚生労働大臣賞に選ばれた小川歌恋さん（福岡・久留米市立城島中学校2年）の作品『この夏一番の出会い』は、夏休みに家族と父親の友人家族との交流の中で出会った17歳のダウン症のKさんの相手を気づかう優しさ、礼儀正しさを知り、思わず自分を反省したことが素直に書かれています。障がいのある子のおかげで家族が一つにまとまっているという話を聞き、その家族愛に感銘を受ける柔らかな感性が印象に残りました。

会長賞に選ばれた小学生部門2作品、中学生部門2作品もそれぞれに障がいについて理解しようとし、今後の福祉について考えられている作品であると高く評価されました。更に、甲乙つけがたく、予定外として審査員特別賞を設定し、小学生部門2作品、中学生部門4作品が推薦されたことのご紹介をし、改めてご応募いただいた皆様、ご協力いただいた関係者各位に感謝を申し上げ、審査報告といたします。

選考委員代表

橘 文也

## 第1回 全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール

### 選考委員会 委員名簿

団体名（役職）		氏名	備考
後援団体	文部科学省 初等中等教育局（視学官）	長尾 篤志	
	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課（課長補佐）	落合 克彦	
	社会福祉法人 全国社会福祉協議会 高年・障害福祉部（部長）	佐川 英雄	
	一般財団法人 児童健全育成推進財団（理事長）	鈴木 一光	
	全国特別支援学級設置学校長協会 （会計部長）	須田 淳一	東京都板橋区立板橋第一中学校（校長）
	全日本特別支援教育研究連盟 （副理事長）	明官 茂	・全国特別支援学校知的障害教育校長会（会長） ・東京都立町田の丘学園（校長）
学識経験者	ルーテル学院大学 総合人間学部（教授）	西原 雄次郎	
	岡山大学大学院 法務研究科（教授）	西田 和弘	
	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会（会長）	橘 文也	